

# 成田での「戦争法反対署名 事件」を考える

吉岡秀樹（ 秋葉幸一さんを守る会代表）

## ＜事件の概要＞

一昨年（2014年）の3月、県立高校を退職した秋葉さんは現職時の職務の関係で手元にあった生徒個人情報を使用し、教え子である卒業生335名に戦争法（安保関連法）廃止を求める署名用紙を返信用封筒と共に郵送しました。このことが一般新聞各紙で「不正な情報の持ち出し」などと否定的に大きく報道されました。

結果、秋葉さんは高校側から手元の全データの削除を求められ、県教委からは「勧告」処分を受けました。本人は、当局の対応に不満はありながらも、データの目的外使用の責を認め、その処分を受け入れました。戦争法廃止を求めて秋葉さんと共に活動していた私たちは、このことでこの件は終わったと考えていました。

しかし、勧告処分の1年後の昨年5月、県教委は秋葉さんの行為が「千葉県個人情報保護条例第63条」に違反するとして千葉県警に刑事告発したのです（この告発の背後に保守県議の県教委への圧力のあったことが後日、判明。しかし当時はわかりませんでした）。直後、成田警察署員5人による家宅捜査と延べ10時間を超える取り調べが行われたのです。

その後、私たちは「秋葉幸一さんを守る会」を結成し、多くの市民の支援のもとに県教委や千葉地検へ向けて「刑事告発は不当、不起訴を」の活動を進めてきました。結果は、昨年末の千葉地検による「不起訴」処分の判断でした。これは秋葉さんや私たち支援者にとっては勝利であり、7ヶ月もの間、被疑者の立場に置かれてきた秋葉さんが無罪を宣告されたものと同じでした。

## ＜秋葉さんの「不起訴」に県教委やマスコミは＞

しかし、検察の「不起訴」判断に県教委のとった態度は「コメントを差し控えたい」というものでした。刑事告発とその後の警察による家宅捜査や証拠物件の押収などによって著しく人権侵害され、長期にわたって社会的信用を傷つけられた秋葉さんに対して、謝罪の一言もなかったのです。また「事件」発覚直後、あるいは刑事告発時には、県教委からの誤った情報のもとに一方的に「元高校教師批判記事」を仕立て上げたマスコミの多くは、紙面の片隅で小さく不起訴を伝えただけでした。

## ＜「抗議文」「要請書」も無視＞

秋葉さんと「守る会」は、今年の1月末に県教委に対して「抗議文」と「要請書」を提出しました。公式の場で「不起訴」に対する見解と謝罪表明をするように求めたのです。また、弁護士も同趣旨の「質問書」を届けました。その結果、弁護士には2月末に極めて誠意のない、謝罪の一言もない「回答書」が届きましたが、秋葉さんと「守る会」への返事はありませんでした。

秋葉さんは抗議文の末尾に「残念ながら貴委員会の意思表示が確認されない場合は、貴委員会の不誠実な対応として、広く県民にこのことを公開し、民意を仰ぐことをご了承ください」と書きました。秋葉さんと「守る会」はHP（文末参照）で「保守系県議の圧力のもとに先例のない刑事告発に至った委員会でのやりとり」と不起訴を求めた活動の一部始終を公開することにしました。

### <そもそも「条例の『改ざん』」にもとづく刑事告発は不当だった>

「なぜ、刑事告発をしたのか」という弁護士への質問に、県教委は次の様に答えました。「業務に関して知り得た個人情報を、自己の不正な利用を図る目的で盗用することを禁じた、千葉県個人情報保護条例第63条に該当するため、告発した」と。しかし、これには重大な間違いがあります。下線部の正確な文言は「不正な利用」ではなく「不正な利益」なのです。つまり、「自己若しくは第三者の不正な利益を図る目的」がなければ、処罰されることはありません。秋葉さんは個人情報を他へ売り渡したりして利益を得たわけではありません。それを使って教え子に署名を依頼した（しかも強制ではなく、政治参加をもとめるものでした）だけです。この行為を「不正な利益」を図るため」とはとても言えません。県教委はおそらくそのことを理解していて「不正な利益」を「不正な利用」と「改ざん」して、秋葉さんを刑事告発したのです。これは不当だといわざるをえません。

### <それでは、県教委は1年も経ってから、なぜ刑事告発したのか>

県の文教委員会での保守系議員と県教委とのやりとりの情報を県のHPから入手して判りました。県議会文教委員会で、与党議員や右翼系団体に属する議員から県教委は2度にわたり圧力を受けた結果、刑事告発に至ったこと（県文教委員会の公開文書参照。「守る会」HP）です。

この構図は、現在、問題となっている右翼政治家による文科省を通しての学校現場への政治介入や千葉県の実教出版「日本史」教科書採択校への政治介入と同じです。

### <保守県議・県教委の企みは失敗したが>

県教委の企みは失敗しました。しかし、その効果は十分あったのかもしれませんが。新聞報道を通じて「左翼的な元教員が生徒個人情報を盗用してまで戦争法反対署名を行っている」と県民にイメージさせ、元教員や現職教員をも萎縮させた可能性があるからです。

### <そうだとしたら私たちは何をしたらよいか>

私は考えます。

秋葉さんは335名の卒業生へ署名を依頼しました。依頼文の末尾に「18歳選挙権に伴い国政選挙に行かれることを期待します。…夢を信じて、自分のために大切な一票を投じて下さい。あなたの幸せはあなた自身の力で勝ち取る事を念じています」と記しました。戦争がひたひたと近づくこの時に、元教師として卒業生の一番大事な時期に「平和な世を創る主権者であってほしい」と呼びかけたのでした。私もそれに触発されて年賀状のやりとりをしていた100名の友人や教え子に署名をお願いしました。私の他にも同様のとりくみをした人が何人もいます。

今、憲法改悪反対の3000万署名が提起されています。秋葉さんの事件が不起訴になった今、私たちは萎縮しているわけにはいきません。安倍独裁内閣の膿は今、一気に吹き出そうとしています。周りでもそれを感じる人がぐんと増えています。一人でも多くの人に「署名」をお願いしたい。「膿」を出し切り、今の政治を変えたい。これが「成田での戦争法反対署名事件」にかかわった私の決意です。

「秋葉幸一さんを守る会」の活動については以下のHPをご覧ください。

HPアドレス <http://www.akiba51.net/> (成田市・2007年度退職)